

第135回

能楽

大会・ワークショップ

ワークショップ

第一部

【九時半】錦城能楽会・こども能楽教室発表会

第二部

【二三時二〇分】講演

「大聖寺藩第十四代

前田利鸞公と加賀市能楽」

大聖寺公民館長 伊林 永幸氏

【二四時】能楽鑑賞体験会 金沢能楽会

◆ワークショップ

謡ってみよう〈小謡〉
演じてみよう〈狂言〉
舞ってみよう〈仕舞〉
打ってみよう〈小鼓、大鼓、太鼓〉
吹いてみよう〈横笛(能管)〉

◆狂言「柿山伏」 山伏中尾史生 畑主能村祐丞

◆舞囃子「羽衣」 シテ 渡邊茂人 小鼓 住駒俊介 大鼓 飯島六之佐 地謡 佐野由於 佐野弘宜

伝統芸能「加賀宝生能楽」は
加賀市の原点



6/12日 9時半開始 (9時開場)

加賀市民会館 大ホール

主催 錦城能楽会

共催 加賀市、加賀市教育委員会

後援 北國新聞、加賀ケーブルテレビ

入場
無料

当日のスケジュール 合間の途中出入り可 親子そろって参加してください。

- 午前 9:00 開場 (手の消毒とマスク着用をお願いします)
- 午前 9:30~ 錦城能楽会 第135回能楽大会開始 (素謡、舞囃子、太鼓独鼓、子供舞囃子)
- 午後 0:20 午前の部終了予定
休憩
- 午後 1:20~2:00 講演「大聖寺藩第14代藩主前田利としむね公と加賀市能楽」大聖寺公民館長 伊林永幸氏
- 午後 2:00~2:40 ワークショップ 能楽師の指導により体験します。
能楽師による話「能楽とは」
- 小謡体験：〈能しょうじょう〉猩々のキリ(最後)を能楽師の指導で謡ってみましょう。
台本は当日のプログラムの中にあります。(全員で)
- 狂言体験：舞台の上で狂言の動きを演じてみましょう。(希望者3名程度)
- 仕舞体験：舞台の上で舞を舞ってみましょう。(希望者3名程度)
- 楽器体験：舞台の上で楽器に触り、鳴らしてみましょう。
横笛(能管)、小鼓、大鼓、太鼓(それぞれ希望者3名程度)
- それぞれの体験希望者は当日受付で申し込んでください。
- 午後 2:40~2:50 休憩
- 午後 2:50~3:10 狂言「柿山伏」
- 午後 3:10~3:30 舞囃子「羽衣」
- 午後 3:30 終了予定

金沢能楽会

金沢能楽会は佐野吉之助師を中心に明治34(1901)年に設立されました。江戸時代、五代藩主前田綱紀が宝生流鼈員の五代將軍綱吉にならって宝生流に改流してから、加賀藩主は代々宝生流を愛好し、手厚く保護したため、加賀宝生という名が生まれるほど宝生流の盛んな土地となりました。加賀藩では領民にも謡を奨励し、多くの領民が謡を習い、その裾野は大きく広がりました。これにより金沢は「空から謡が降ってくる」とも言われました。明治維新による幕藩体制の崩壊によって加賀藩の保護を失ってからも、金沢能楽会が加賀宝生を受け継ぎ、100年以上の長きにわたって継承保存と普及振興に努めております。

あらすじ

【狂言】柿山伏 かきやまぶし

出羽の羽黒山の山伏が山で修行して帰る途中、のどが渴いたので柿の木へ登り実を食べていたところへ、出羽の畑の主が見回りに来ました。木の陰に身を隠した山伏を見つけた畑の主はわざと知らぬ顔をし、あれはイヌだ、サルだと呼びかけるので、やむなく山伏もその鳴きまねをします。そして、トビなら空を飛ぶだろうとはやすのにつられ、つい飛ぼうとした山伏は墜落し、起き上がれなくなります。山伏と畑主のおもしろい掛け合いの一幕です。

【舞囃子】羽衣 はごろも

松にかけてあった天人の羽衣を漁夫の白龍(はくりょう)が家の宝にと持ち帰ろうとします。天人は返してほしいと頼み、白龍は舞楽を見せてくれるなら衣を返そうと言います。天人は喜び、羽衣を着て、月の世界のことや地上の三保の松原をとともに讃えつつ「駿河舞」や「序の舞」「破の舞」を舞い、やがて富士の高嶺へと舞い上がり、大空の霞にまぎれて消えて行きます。